

犬の性格とイメージの研究

21011345 森沙織

目的

犬がそれぞれ持っている性格とイメージの違いを調査する。

仮説

犬の性格と犬に対するイメージに違いはない。

方法

SD法を用いた七件法のアンケートで多摩大生 50 人を対象に調査する。

SPSS で因子分析を行う。

結果（因子分析）

パターン行列

因子行列^a

	因子		
	1	2	3
犬9	.988	-.059	-.023
犬8	.544	.368	.275
犬6	.482	.115	.358
犬4	.364	.715	.067
犬1	.341	.707	-.057
犬3	.395	.702	-.004
犬5	.290	.653	.042
犬10	.188	-.386	.607
犬7	.345	.134	.477
犬2	.089	.023	.176

因子抽出法: 最尤法

a. 3 個の因子が抽出されました。23 回の反復が必要です。

因子 1 「優しい」

⑨ ゴールデンレトリバー、⑧ ボーダー・コリー、⑥ 柴犬

因子 2 「甘えん坊」

④ プードル、① ミニチュア・ダックス・フンド、③ ポメラニアン、⑤ チワワ

因子 3 「利口」

⑩ ジャーマン・シェパード・ドッグ、⑦ ビーグル、⑥ 柴犬、② フレンチブルドッグ、

⑧ ボーダー・コリー

考察

仮説通り、犬に対するイメージと犬が持っている性格にほぼ違いはなかった。